

要求工学

Group J5

2009SE077 石田雄大

2009SE202 濁川 誠

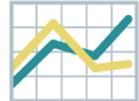
目次

- 今までの発表より
- ステークホルダの絞り込みと合意形成
- 絞り込み・合意形成の後
- 過去の卒業論文
- 今後の方針
- 参考文献

今までの発表より

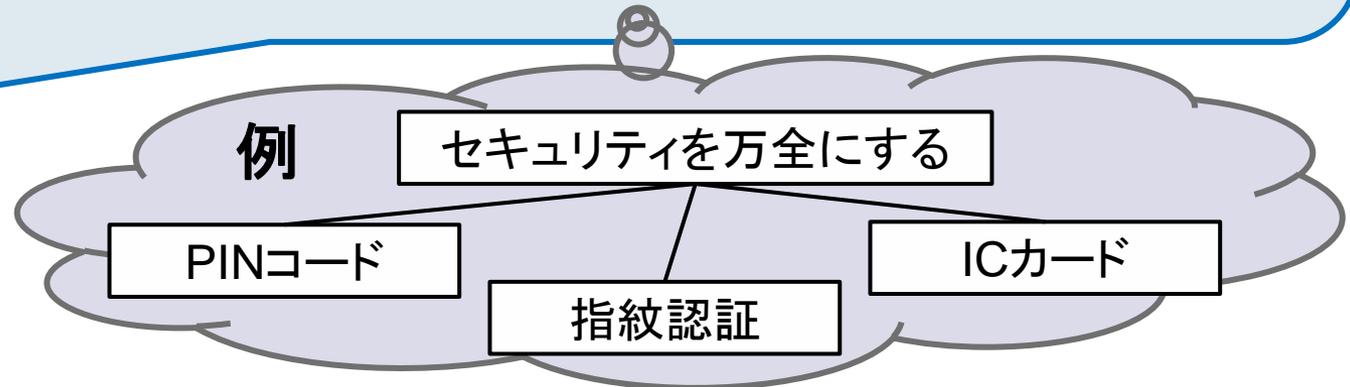
着眼点

要求分析のプロセスに改善の余地があると考える



要求における問題

- ・**ステークホルダの増加**によって要求分析が困難になっている。
ex) ステークホルダの特定が不十分，要求定義のプロセスにコスト・時間がかかる
- ・ステークホルダ自身の**要求が定まっていない(曖昧になっている)**ため、開発したいモノがはっきりしない。
ex) システムの業務効率を上げたい，セキュリティを万全にする

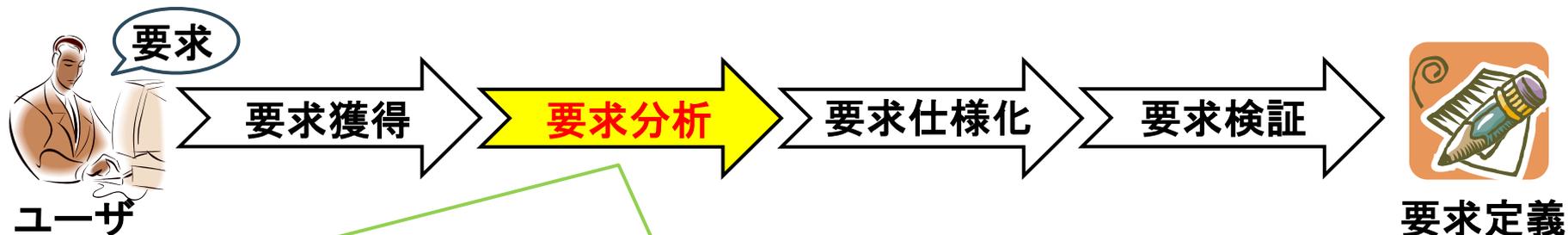


主要ステークホルダの決定，各ステークホルダに対して**要求を確認**することで問題を解決



ステークホルダの絞り込みと合意形成

要求を定義する4つのプロセス



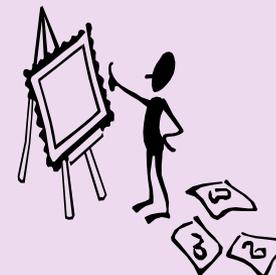
絞り込み

- ・多数存在するステークホルダから、重要なステークホルダを絞り込む。
- ・数値化して絞り込む。
- ・主観が入らないようにする。

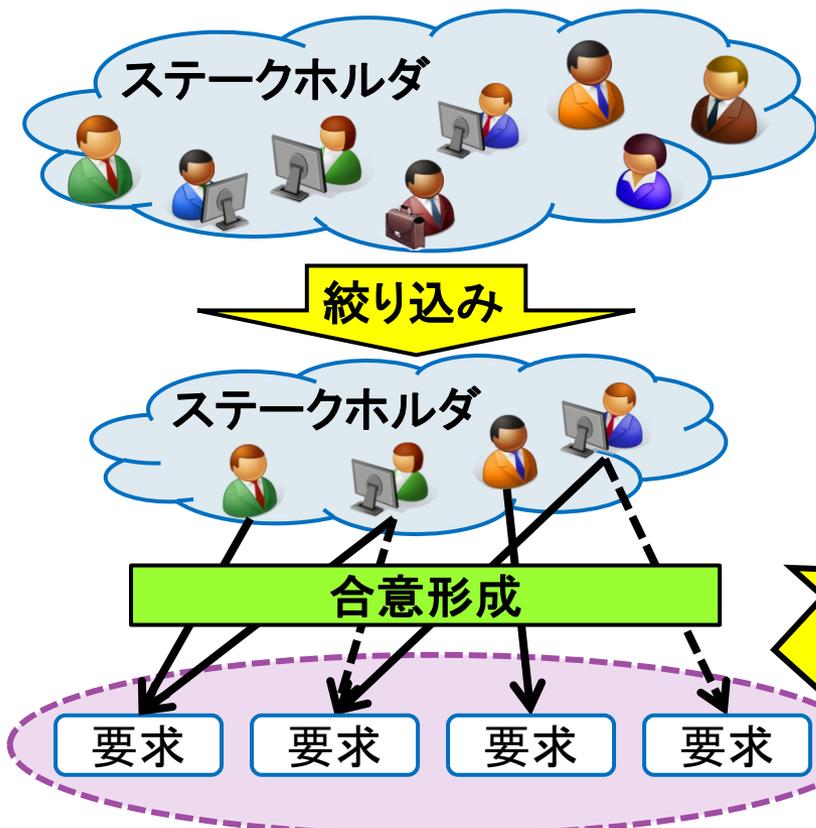


合意形成

- ・数値化して検証をする。
- ・要求の詳細化・具体化もする。
- ・主観が入らないようにする。



絞り込み・合意形成の後



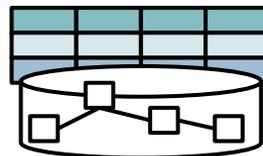
優先順位付け

目的

- ・限られたリリース(期間・コスト・人など)内で競合する要求を扱うため
- ・単に実装する順序を定義すること以上に **ステークホルダの期待を明らかにする**
- ・優先順位を付けることで、製品のリリースに含めるのに相応しい **要求を選び出す**



グラフ化・モデル化



優先順位づけられた
要求モデル

i*frameworkなどを用いて
可視化する



要求仕様化



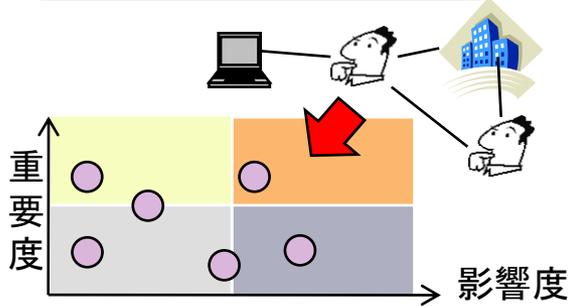
過去の卒業論文(1/2)

2011年度「ステークホルダを中心とするゴール分析方法の提案」

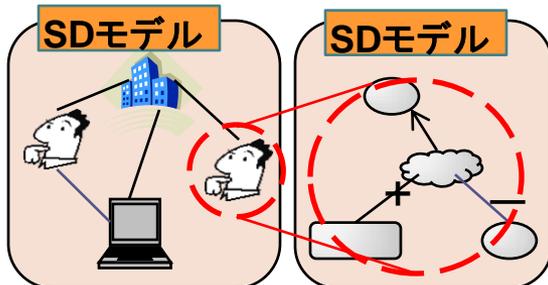
概要

ステークホルダとゴールの多様化により情報が複雑化し、問題分析が困難になっている。それに対してステークホルダを絞り込み、ゴール分析で扱う分析情報を限定できるゴール優先度決定プロセスの提案。

ステークホルダ分析



i* framework



相互作用マトリクス

支配的かつ決定的な組み合わせを確定するために、特定された要素を相互に関連付ける手法。

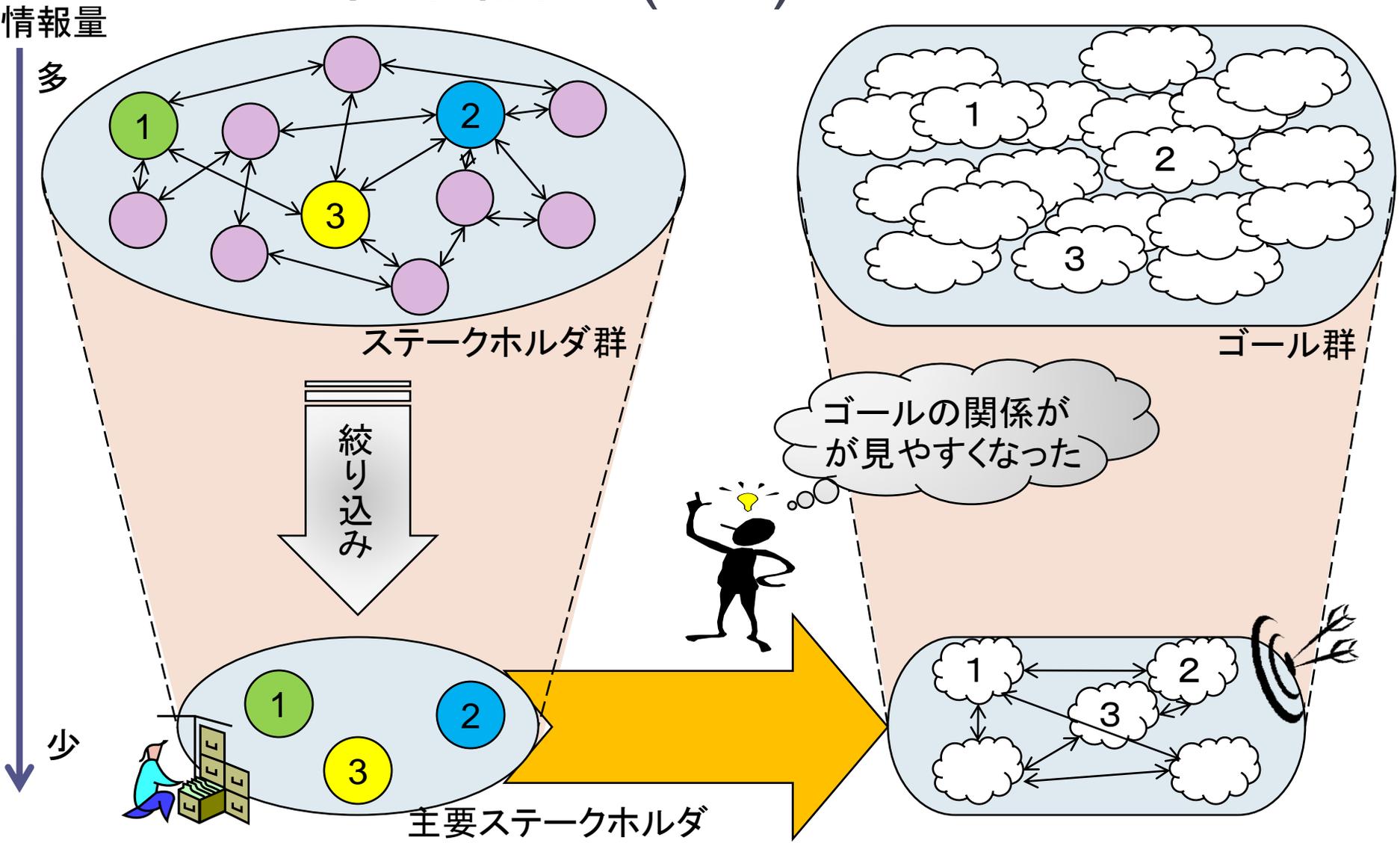
相互関係	要求a	要素b	要素c	総和	商
要素a		1	3	4	0.8
要素b	2		1	3	3
要素c	3	0		3	0.8
総和	5	1	4		
積	20	3	12		

クロスインパクト分析

要素間の相関関係を決定、説明する定量的分析方法。相関関係の強度と連続性を評価することが目的。

環境	環境a	環境b	環境c	影響	
				+	-
戦略a	-2	1	3	4	-2
戦略b	1	2	0	3	0
戦略c	0	-4	2	2	-4
影響	+	1	3	5	
	-	-2	-4	0	

過去の卒業論文(2/2)



今後の方針

- ステークホルダの絞り込みにおける、プロセスの提案
 - ▶ 使用技法の決定(比較して検討する)
 - ▶ 絞り込みの基準を提案
- ステークホルダの合意形成法の提案
 - ▶ 使用技法の決定(比較して検討する)
- 具体例の模索

参考文献

- 要求工学
著:大西 淳・郷 健太郎
- 要求工学知識体系 (REBOK)
- 2011年度卒業論文